

道連ニュース

2025年8月号 No.224

北海道生活協同組合連合会

〒003-0803 札幌市白石区菊水3条4丁目1-3

こくみん共済coop北海道会館内

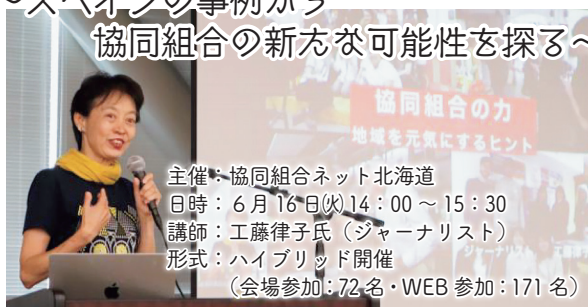
TEL 011-841-8601 FAX 011-841-8605

URL: <http://www.doren.coop>

協同組合ネット北海道 IYC2025記念講演会

を開催しました！

～スペインの事例から
協同組合の新たな可能性を探る～



主催：協同組合ネット北海道
日時：6月16日(火)14:00～15:30
講師：工藤律子氏（ジャーナリスト）
形式：ハイブリッド開催
（会場参加：72名・WEB参加：171名）

講演で工藤氏は、自身の豊富な海外取材経験に基づき、スペインにおける多様な協同組合の事例を紹介しました。中でも特に参加者の注目を集めたのは、中学2年生が主体となって運営する労働者協同組合の事例です。理事長を担う生徒は、「協同組合活動の経験は、協同することの大切さをみんなの心に刻むものです。誰もが自分の考えを提供できて周りがそれを尊重する

ことが重要です」と力強く語ったといえます。この言葉は、協同組合の原点ともいえる理念を改めて示すものでした。

また、講演ではスペインの労働者協同組合の事例から、地域の課題解決のために自治体が積極的に「社会的連帯経済」を支援している実情も報告されました。

特にカタルーニャ自治州では、その成り立ちから住民自治や教育を重視する文化が根付いており、協同組合の実践を支える土壌となっているとのことでした。

参加者からは、これらの事例を通じて、「自分のやりたいことを実現することが、結果として他者や地域への貢献につながる」という「新しい働き方」の可能性や、児童生徒協同組合の活動が子どもたちの自己実現や共感力を高める上で大きな教育的効果を持つことが感じられたとの声が聞かれました。

講演の最後に、工藤氏は「次世代の経済『社会的連帯経済』をひろめ、『お金』よりも『愛』が大切と言える社会を」という熱いメッセージを投げかけました。

今回の講演会は、私たち協同組合組織にとって多くの『学び』があり、自らの活動の意義や今後の可能性を再確認する大変有意義な時間となりました。

2025年度 会員生協役員変更のお知らせ

* 新任 ○常務理事 □常勤理事（敬称略） 2025.7.30現在

会 員 名	理事長名	専務理事名
コープさっぽろ	大見 英明	小松 均 ○米内 徹 ○鈴木 裕子
生活クラブ	片桐 葉子	畑 玄理 □多田 健介
北海道勤労者住宅	高倉 司	柴野 一彦 □高宮 正巳
北海道労働者共済	藤盛 敏弘	* 原山 元志
さっぽろ高齢者福祉	小松 徹人	柿原 尚美 □加藤 彰
あさひかわ福祉	萩原 信宏	倉島 正 ○古屋 薫 ○吉岡 正徳
北海道電力	佐々木邦彦	* 坂本 哲也
北海道学校	山谷 一夫	五十嵐泰浩
網走四地区学校	萩野谷 剛	○水嶋慎一郎

会 員 名	理事長名	専務理事名
大学生生活協同組合連合会 事業連合北海道地区	齋藤 真廣 (運営委員長)	○田端 一徳
北海道大学	坂爪 浩史	齋藤 真廣
北海学園	佐藤 信	平清水辰人
酪農学園	吉田 磨	* 古屋 麻実
北星学園	片岡 徹	浦瀧 誠二
札幌学院大学	大國 充彦	浦瀧 誠二
北海道教育大学	角 一典	古屋 歩
室蘭工業大学	* 川村 志麻	出野 暢一
帯広畜産大学	* 木下 幹朗	伊藤 孝英
北見工業大学	白川 龍生	治部 貴浩

「北海道協同組合就活サミット2025」開催



各団体の採用担当事務局メンバー集合写真

2025年6月21日(土)、「協同組合ネット北海道」が主催した10団体が連携し企画し、就活のイメージを覆す「北海道協同組合就活サミット2025」が北農ビル19階会議室にて開催いたしました。会場には昨年の倍以上、約100名もの大学生が集結！堅苦しい説明会ではなく、楽しみながら「協同組合」のリアルな姿に触れられる就活生にとって特別な一日を提供する事ができました。

★クイズで発見！「そんなことまで!?」 協同組合の仕事の幅広さ

イベントの目玉は、参加10団体が知恵を絞った体験型プログラム。学生たちはグループ対抗のクイズ大会に挑



みました。「ホタテ漁船っていくらするの?」「最高金賞の『ゆめびりか』を作ったJAはどこ?」——農業、漁業、林業、そして暮らしの分野まで、次々と飛び出す奥深いクイズ

に、学生たちは相談しながら挑戦。正解が発表されるたびに「おーっ!」という歓声が響き渡り、会場のボルテージは最高潮に。

★走って、探して、理解する！白熱の「借り物競争」

特に会場が一体となったのが「協同組合借り物競争」。お題のアイテムを持つ団体ブースに、学生たちが全力疾走！あるチームのお題は、JA北海道中央会が国に届けたばかりの「政策要請書」。リアルな仕事道具に触れることで、学生たちの知的好奇心はフル回転。遊びながら学ぶうちに、協同組合がぐっと身近な存在になったはずです。



★とても気になる 「採用担当者のトークショー」

最後の企画は各採用担当者のその人柄や考え方がわかる!! 例えば、『ぶっちゃけ今の就職先は第1志望?』、『何故今の団体に入社したのか?』、『社会人ってぶっちゃけ楽しい?』や、思い出の出来事などについて深掘するトーク



ショー！参加した学生に採用担当者の人柄や考え方、入社してからの考えなど、その団体が採用担当者の考えや思いでわかるトークショーでした！

参加した学生たちの声

(参加者アンケートから)

イベント全体の雰囲気や運営について

- 「就活セミナーはかっちりとしたものが多い印象でしたが、本日終始和気あいあいとした雰囲気で親しみやすさがありました。」
- 「職員の方々がみなさん明るく印象が良かった。」
- 「採用担当の方々も皆さんとてもフレンドリーであたたかく、本当に素敵な雰囲気でした。」
- 「リラックスしながら、しっかり内容に集中して参加できる環境が非常に印象的でした。」
- 「就職活動を始めたばかりで、対面で企業の説明会に行くことに不安な気持ちがありましたが、とても楽しくたくさんのお話を聞くことができました。」

企画・プログラム内容について

- 「アイスブレイクや景品のあるクイズ・借り物競争、トークショーなど、さまざまな工夫が凝らされたプログラムで楽しみながら協同組合について知ることができました。」

- 「座学のような形でなく、ゲームを交えつつ企業説明を小出しで聞けたので、集中しつつ理解が深まった」
- 「グループで協力して問題を解きながら、協同組合について理解することができ、有意義な時間を過ごすことができた」
- 「自分で好きな企業の話聞きに行くのではなく、全ての企業の話聞けるのがとても面白かった」

業界理解の深化について

- 「今まで知らなかった企業さんのことを知ることができたから。」
- 「よく知らなかった業界の詳しい仕事内容、やりがいなどをお聞きすることができ、とても視野が広がりました。」
- 「1日で10団体もの話を聞くことができ、非常にためになった」
- 「元々よく分からなかった企業にも魅力を感じ、説明会やインターンに参加したいと思った。」
- 「このセミナーを通してさらに詳しく気になった団体のインターシップなどに参加する意欲が湧きました。」

「牧場の恵みを体験！ 親子で酪農チャレンジin恵庭」



子どもたちの目が輝いた酪農体験



メインイベントの乳しぼり体験では、大きな牛を前に最初は驚いていた子どもたちも、酪農家の方から興味津々に挑戦していました。私も初めての体験でしたが、事前に教わった手順をイメージしながら挑戦。牛の温かさや、乳を絞る際の独特な感触を肌で感じることができました。

子牛へのエサやりでは、子どもたちが差し出したエサを子牛が直接手から食べてくれると、「かわいい!」「食べてくれた!」と大喜び。その嬉しそうな表情がとても印象的でした。



協力して作ったバターは最高の味!

バター作り体験では、親子で力を合わせ、ペットボトルに入った生クリームを一生懸命に振る姿があちこちで見られました。完成したばかりのバターをクラッカーに乗せて

参加された方の声

●動物との触れ合いは機会があっても、なかなか乳搾りを体験する機会はないので、貴重な機会でした!さあやってみましょう?と、ただ体験するだけでなく、酪農事業の大変さなど具体的なお話が聞けた事で息子も、給食でいただく牛乳や、日々の食事に感謝の想いが深まったと話しておりました。

●動物に触れ合う機会が全くないので、娘も大喜びでした。乳搾りも意外と上手に搾っていてびっくりでした。バターは大変だけど、お友達が頑張っている姿を見て、母が代わってやっても、娘から、もう少し頑張る!貸

して!と触発されており、ほぼ最後まで自分の力で作ったバターをオムライスにもかけて、美味しい!と綺麗に食べて大満足だったようです。とても楽しい時間をありがとうございました!また、仲良くなった友だちのお母さんと連絡先を交換し、今後も交流を深めていけそうです。なかなか、ひとり親と知った上で仲良くなる機会がないので、是非また参加し、色々な親子と仲良くなれたら嬉しいなと思いました。ありがとうございました!

●乳搾りをはじめてしましたが、母も息子もとても貴重な体験となりました。

ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト
北星学園大学 社会福祉学部 社会福祉学科 1年
葦山 璃海

当日は、30度を超える真夏日にも関わらず、子どもたちの笑顔と熱気に包まれた一日となりました。参加は親子20組(41名)と事務局のサポートとして学生プロジェクトから6名が参加し、私にとっても、牧場を訪れるのは初めてで、すべてが新鮮で貴重な体験となりました。

日時: 2025年6月29日(日) 場所: むらかみ牧場(恵庭市)
参加人数: 51名
主催: 北海道生協連・ひとり親とこどもふぉーらむ北海道・
(株) FUJI
協力: ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト

美味しそうに頬張る子どもたちの笑顔を見た時には、大きな達成感とともに、私自身も温かい気持ちになりました。

酪農の「今」を知る 貴重な学び

体験の合間には、酪農家の方から日本の酪農の現状についてお話を伺いました。近年、北海道では生乳の廃棄や離農が相次いでいること、政府の補助制度が牛の頭数減少に繋がり、酪農の将来に不安が広がっているという現実に胸が締め付けられる思いでした。また、外国人労働者の受け入れが進む一方で、共生や労働環境の改善が課題となっているというお話は、酪農を取り巻く状況の複雑さを教えてくれました。

猛暑の中ではありますが、参加者全員が体調を崩すことなく、無事に活動を終えられました。子どもたちのたくさん笑顔や、何事にも興味を持って挑戦する姿に触れることができ、私にとって学び多く、心温まる一日となりました。このイベントが、子どもたちにとって牧場や酪農について知る良いきっかけになったなら嬉しいです。



「夏の恵み、親子で挑戦！ブルーベリーを収穫してアイスクリーム作り体験inくるるの杜」

ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト
小樽商科大学 商学部経済学科
東 陽菜



第3弾体験格差の解消企画は「ホクレンくるるの杜」を訪れました。前日までの不安定な天気や嘘のように、当日は抜けるような青空が広がる絶好のイベント日和。30度を超える真夏日でしたが、参加者全員が熱中症に気をつけながら、夏の味覚を存分に楽しむ一日となりました。

日時：2025年7月21日(月祝) 14:00～16:30
場所：ホクレンくるるの杜(北広島市) 参加人数：37名
主催：北海道生協連・ひとり親と子どもふぉーらむ北海道・(株)FUJI
協力：ほっかいどう若者応援★学生プロジェクト

知識と体験で深まる「くるるの杜」の魅力



今回のメインイベントはブルーベリーの収穫とアイスクリーム作り。しかし、単に体験をするだけでなく、「ホクレンくるるの杜」がどのような場所なのか、ブルーベリーとはどんな果物なのか、アイスクリームはどのように作られるのか、といった座学も充実していました。

「ホクレンくるるの杜」では、今回体験したブルーベリー以外にも、ハスカップやじゃがいも、ピーマンなど、多種多様な野菜や果物を育てており、それぞれの収穫や調理体験も頻繁に行われていると知り、ぜひまた訪れてみたいと強く思いました。

初めてのブルーベリー収穫に夢中！



私自身も人生初のブルーベリー収穫体験。参加者の多くも初めての経験だったようです。収穫前には、美味しいブルーベリーの見分け方や、新鮮な状態を保つためのコツなどを丁寧に教えていただきました。子どもたちはもちろんのこと、大人たちも真剣な表情で話を聞いていました。おかげで、みんなが簡単に、そして楽しく美味しいブルーベリーを収穫することができました。つやつやと輝く大粒のブルーベリーを見つけるたびに、歓声が上がっていました。

収穫したばかりのフレッシュなブルーベリーを使って、いよいよアイスクリーム作りです。材料を混ぜ合わせ、専用の容器に入れたら、ひたすらシェイク(休まず10分間)！最後の仕上げには、タオルを使って容器を回すという「大仕事」がありましたが、皆さん、疲れも見せずに楽しそうに作業していました。そうして出来上がったアイスクリームは、ひんやりとろける口どけで、ブルーベリーの甘酸っぱさが口いっぱいに広がり、まさに絶品！子どもたちからは「おかわりしたい！」

力を合わせて作る、ひんやり絶品アイス！

収穫したばかりのフレッシュなブルーベリーを使って、いよいよアイスクリーム作りです。材料を混ぜ合わせ、専用の容器に入れたら、ひたすらシェイク(休まず10分間)！最後の仕上げには、タオルを使って容器を回すという「大仕事」がありましたが、皆さん、疲れも見せずに楽しそうに作業していました。そうして出来上がったアイスクリームは、ひんやりとろける口どけで、ブルーベリーの甘酸っぱさが口いっぱいに広がり、まさに絶品！子どもたちからは「おかわりしたい！」



という声が続出し、あっという間になくなってしまいました。自分たちで収穫し、作ったアイスクリームは、格別の味がしたことでしょう。



温かいサポートに感謝！

今回の体験を通して、「ホクレンくるるの杜」のスタッフの方々には大変お世話になりました。終始、参加者一人ひとりに優しく丁寧に接し、サポートしてくださったおかげで、スムーズに、そして安心して活動に取り組むことができました。

さらに、嬉しいサプライズとして、最後にししとうの収穫体験までプレゼントしていただきました。思いがけないお土産に、子ども、お母さんたちも大喜びでした。

「ホクレンくるるの杜」での一日を通して、自然の恵みを感じ、食の大切さを学ぶことができました。夏の暑さを吹き飛ばすような、笑顔と感動に満ちた素晴らしい体験を本当にありがとうございました。

参加された方の声

- 暑い中、スタッフの皆様ありがとうございました。車がないと行きにくい場所で収穫体験ができ、良い企画でした。
- バス送迎のおかげで移動が楽でした。収穫体験もアイス作りも親子で楽しめ、遠出の機会がない私たちにとって貴重なイベントでした。娘も大変喜んでおり、良い思い出になりました。
- スタッフの皆様の温かいご対応のおかげで、終始楽しく過ごせました。ありがとうございました。
- 素晴らしいイベントをありがとうございました！
- 車がなく、普段なかなか外出できない私たち親子にとって、このイベントはかけがえのない思い出となりました。ありがとうございました。
- 注意事項を参考に親子で協力し、アイス作りを体験しました。途中で疲れ、他の親子と笑い合いましたが、無事に美味しいアイスができて良い経験になりました。家でも作ってみたいと思います。